

[第19回]

ZUKEN 株式会社 図研
The Partner For Success

代表取締役社長 **勝部 迅也** 氏

世界NO.1を目指す 国内NO.1の独立系IT企業 ～エンジニアリングITで、期待を超える価値を創造していく～

株式会社図研は、1976年に設立された「世界のモノづくりを支える独立系IT企業」であり、製造業における製品設計・開発業務全体の高度化・最適化を支援する、各種ITシステムの開発・製造・販売や、コンサルティングサービスなどを提供されておられます。代表取締役社長の勝部迅也様は、代表取締役会長で創業者の金子真人様に見込まれて同社に入社し、海外事業立上げをはじめ様々な業務を担ってこられました。今回のインタビューでは、「世界中のどの企業にも負けない商品を提供する企業」を目指す、という勝部迅也様から、株式会社図研の商品の素晴らしさや将来ビジョンについて、じっくりとお話を伺いました。



**日本唯一の
「全世界の製造業に
ソフトウェアを提供」する企業**

—はじめに、御社のこれまでの歴史や特徴について、簡単にご説明いただけますでしょうか。

勝部 当社は、元々、テレビ、カメラのような消費財から、医療機器のようなビジネス向け機器に至るまで、あらゆる機器の電気設計を行うためのソフトウェアを提供する企業としてスタートしました。その後、電気設計から派生して、自動車のワイヤハーネス設計や工場内の配電盤の設計などのソフトウェアも手掛けるようになってまいりました。更に、そこからビジネスを拡大し、電気配線や配管などを含めた、工場、プラントの全体の設計に関する商品作りを始めたわけです。

したがって、現在の当社のお客様の中には、製品開発のための電気設計を必要とするお客様だけでなく、工場や



プラントなどの建設施工をされているお客様もいらっしゃいます。

そこで、当社の特徴は何か、というご質問に対するお答えなのですが、「全世界の製造業に、独自開発したソフトウェアを提供する唯一の日本企業」ということが挙げられると思います。ゲームソフトなどBtoCの分野では、世界に通用するソフトウェアを開発している日本企業がいることは事実ですが、BtoBの分野、特にエンジニアリングの分野では、世界に通用するソフトウェアを本格的に提供している日本企業は、当社以外ありません。当社のソフトウェアは、本場である米国の大手製造業も使っています。

—素晴らしいことですね。しかし、数多くある日本企業の中で、何故御社だけが、そうしたことができたのでしょうか。

勝部 まず、創業者である金子真人会長の「世界に当社の商品を広げたい」という気持ちが大きかった、という気がします。もちろん、最初の5年間くらいは、大変な状況でした。図研ヨーロッパ、図研アメリカ、図研アジア、図研台湾といった子会社をつくりましたが、ことごとくうまくいきませんでした。特に、米国はソフトウェアの本場であり、家電製品ならともかく、ソフトウェアに関しては、当時、「日本のソフトウェアなんて使えるの?」といった感じでした。当社のソフトウェアの

マニュアルを見たある米国人からは「Smelling rice.」と言われ、悔しい思いをしたこともあります。また、社員の募集をしても、なかなか優秀な人は応募してきてくれませんでした。

—御社のソフトウェアの問題というより、日本のソフトウェアへの信頼性が全くなかったということでしょうか。お話を聞いていて思い出したのは、1995年に米国大リーグに挑戦した野茂英雄投手です。全く前例のないことに挑む、ということは大変だと思います。

海外事業の成功のきっかけは英国企業の買収

—ところで、そうした状況をどのような方法で転換されたのでしょうか。

勝部 実は、こうした事態を打開するためには、海外の名の知られた企業を買収して、そのセールスネットワークを利用するしかないのではないか、という話になっていました。ちょうどそのようなタイミングで、英国の総合電機企業レーカルのソフトウェア開発部門（レーカル・リダック社）が事業譲渡される、という話が出てきたのです。買収を希望していた米国企業が、株主総会における反対によって撤退するなどの幸運にも後押しされて、1994年6月に、買収することができました。このレーカル・リダック社は、全世界にセールスネットワークができていたため、当社が開発したソフトウェアを、このセールスネットワークに載せて販売することができました。また、レーカル・リダック社の技術者も、当社のソフトウェアをサポートすることができたことから、人材確保の問題も解決できました。

—御社の優秀なソフトウェアを、ブランドイメージの高いレーカル・リダック社のセールスネットワークを通じて販売する、という手法を取られたのですね。ところで、御社のソフトウェアの優れた点は、後で詳しくお伺いするとして、この時点で、どのようなところが欧米の企業に評価されたのでしょうか。

勝部 電気設計用ソフトウェアは、米国が早くから開発をしていますので、後発組の当社としては、米国企業のソフトウェアにはない特徴がなければなりません。米国製のソフトウェアは、おもにコンピュータで使われるデジタル回路技術を得意としており、例えば音響機器のようなアナログ回路が大事な電気設計は苦手です。これに対し、当社のソフトウェアは、非常に微妙なチューニングが必要なアナログ回路設計にも対応できたので、音響機器をつくるようなお客様には高く評価されました。プリント基板上の配線形状まで考慮して高い品質（この場合音質）を実現する技術というものは、当時当社しか持っていなかったのです。いまでも当社は繊細な配線技術が必要な回路設計を得意としています。ですので、欧米でも、正しくつなぐればよいというだけではなく、配線設計そのものの良し悪しが製品の性能に影響するような製品をつくる多くの企業に高い評価をいただいたのだと思います。

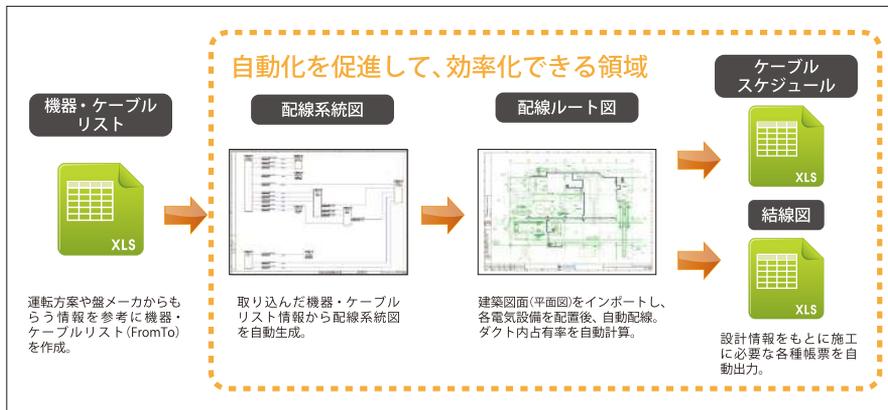
—現時点での御社の市場におけるシェアは、どの程度なのでしょう。

勝部 日本市場については、50%を超えています。欧米では、手ごわい競合企業も多いので、ヨーロッパで20%~30%、米国で10%といったところでしょうか。

設計データを一括管理する E3.series

—ここからは、御社の優れたソフトウェアについて、ご紹介いただけますでしょうか。

勝部 当社には、高品質で高性能のプリント基板設計・製造を必要とする世界3,000社以上の企業に採用されている「CR-5000シリーズ、CR-8000シリーズ」や、エレクトロニクス製品開発のライフサイクルマネジメントにとって本場に必要なのは何かという視点で開発した設計データ管理システム「DS-2」など、数多くの優れたソフトウェアが



プラント電気設計の自動化を支援する E3.series for EC

あるのですが、ここでは、エンジニアリング企業にも関係の深い「E3.series」のご説明をしましょう。

このソフトウェアは、元ドイツ企業（CIM-TEAM社）が保有していたのですが、当社が2006年5月に企業買収し獲得しました。E3.seriesは、もともと機器の中の配線を担うCADなのですが、現在は、電気制御・電装及びケーブル、ハーネス設計のための統合電気CADとして、自動車メーカーとその設備関連企業、工作機械・産業機器メーカーなど幅広い業界でご利用いただいています。

更に、このソフトウェアは、より広範な利用が可能となっています。実は、以前よりエンジニアリング企業のお客様から、プラントの電気設計や配管設計用のCADができないか、といったご要望を承っており、E3.seriesをベースに改良し、これを可能にしました。

また、このE3.seriesを活用することにより、多くの日本の工場が抱えている課題が解決できるのではないかと、も思っております。実は、当社のスタッフが、日本の約200社の工場を見させていただいたのですが、ほとんどの工場で、建設当時の機器の配置図しかなく、現在の機器の配置図がないことが分かりました。また、機器同士がどのようにつながっているか、といった図面もありませんでした。これでは、「IoT推進」などと言っても掛け声だけで、世界に勝てるはずありません。当社の考えている解決策は、まず、機器も含め工場内の全てをレーザースキャンして、三次元のデータをつくり出します。その上で、それぞれの機器

の属性等に応じて、ひと手間加えて、仮想空間内で、最適な機器配置や人員配置をシミュレーションできるようにします。当社ではこうした一連の作業をサービスとして提供ができます。仮想空間内で「工場の見える化」、いわば工場のデジタル・ツイン化を進めることにより、国内でスマートファクトリー化が一気に進むと思っています。

既存の工場やプラントをリバースエンジニアリングしてデジタルデータ化するやり方はいまの日本市場でニーズが大きいので、ここでしっかりとした成果を出せれば、今後欧米のプラント業界にも積極的に売り込んでいけると思っています。

「Game Changer」 となり得るMBSE

— 今後御社はどのようなソフトウェアを開発されていくのか、気になるところですが、御社のWEBを見させていた

だくと、「MBSE」という用語が数多く出てきます。素人の私には全く分からなかったのですが、これは一体どのようなものなのでしょう。

勝部 MBSEというのは、モデルベース・システムズエンジニアリングのことですが、1番のポイントは「モデル」という概念です。例えば、何かやりたいこと（例：自動車の扉を開ける）があれば、それを全て専用の言語で記述してモデル化する、更にそうしたモデルを集めて、一つの製品にしていく、といった考え方です。製品の仕様を意味が曖昧になりがちな自然言語で書くのではなく、厳密にルール化された共通の言語で記述する（モデル化）と、分業もしやすくなり、出来上がった製品がうまく機能するかどうかの分析もしやすくなる、といったメリットもあります。

— お話を伺っていると、なるほどとも思うのですが、実際に行うとなると難しそうですね。

勝部 MBSEを使って物を作ろう、という話の先鞭を着けたのは、米国国防省や航空宇宙産業です。兵器をつくるにも、様々な企業が関連してくるわけで、同じ基準でモデル化することにより、納入側は何が要求されているか、チェックする側は要求した通りの物が出来ているか、それぞれ誤解なく確認するのが非常に楽になる、ということです。当社に関して言えば、まず、最初の構想



勝部 迅也 (かつべ じんや)

1942年 島根県生まれ
 1965年3月 関西大学文学部英文学科卒業
 1965年4月 高千穂交易株式会社入社
 1982年1月 株式会社図研入社
 1984年1月 同社取締役
 1990年4月 同社常務
 1995年6月 同社専務
 2004年6月 同社代表取締役副社長
 2020年4月 同社代表取締役社長(現任)

設計を行うエンジニアが考えていることを言語でモデル化し、それに合わせて、当社のソフトウェアを使用して、物を作ったり設計したりすることとなります。MBSEは、将来のモノづくりの「Game Changer」となる可能性を秘めており、当社の大きな「売り」になるものと期待しています。

V字回復する企業業績

— 御社の企業業績を見て感心したのですが、2021年はやや厳しい状況であったのが、2022年はV字回復を見せていますね。

勝部 企業業績の回復には、当社の創意工夫の結果と、運が味方した部分の二つがあると思います。

まず、創意工夫の面では、当社はリモートワークを早期に取り入れていたことが挙げられます。リモートワークが一時期80%くらいになったこともありましたが、当社の業態がリモートワークに向いていたということもありますが、お客様とのコミュニケーションを

効率的に行うため、独自のオンライン営業プラットフォームを開発しました。真剣にお取引を考えているお客様が、当社のこのプラットフォームにアクセスしていただけるので、効率的な営業活動ができるようになりました。

運が味方した部分としては、お客様企業もリモートワークを進めていかれたことです。自宅で仕事をするとなれば、リモートワークの環境を整える必要があり、当社の最新のCADやその他のソリューションに対する需要が高まる結果となりました。

座右の銘は「運と縁と勤」と「分」

— 最後に、勝部様の座右の銘をお教えいただけますか。

勝部 座右の銘というほどははっきりしたものは無いのですが、例えば入社式の時に、新入社員に向かって話す締め言葉があります。それは、人生において、「運と縁と勤」という三つが絶対に必要だということです。まず、どんな人でも、人生で二つや三つは必ず運はある。それを捕まえに行く気がないと運は捕まらない。運は取りに行かないといけません。「縁」は、これは相手があることですから、築き上げないといけない。「縁」をしっかりと築くことによって、また新しいものが出てくる。最後は「勤」ですが、これは「山勤」ではだめで、情報や知識や経験に裏打ちされた「勤」を働かせないと、物事は成功しない。

ところが、最近ある友人にその話をしたら、その友人は「己を知る、分相応といった『分』が抜けている」というのです。確かに、「分」ということも重要であり、今後は、これも加えようと考えています。

— 私も、勝部様のおっしゃる「運と縁と勤と分」を心掛けていきたい、と思います。本日は、お忙しい中、大変ありがとうございました。



インタビュー後記

勝部社長には、ITに疎い私に対して、懇切丁寧に分かりやすくご説明をいただきました。とはいえ、おそらく私が理解できたのは、ほんの「表層部分」だけだったような気がします。また、海外でご苦労された話をお伺いしようと思ったのですが、「自分の苦労話を話すのは、あまり……」とおっしゃったことは、大変印象的でした。

ただし、厳しい状況の中でも「日本人魂というか、外国人には絶対負けない」という気持ちを持ち続けておられたとお聞きし、それが、全世界の製造業にソフトウェアを提供している株式会社図研の礎になっているのだな、と思いました。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一

企業データ

社名	株式会社 図研
事業内容	製造業における製品設計・開発業務全体の高度化・最適化を支援する、各種ITシステムの開発・製造・販売や、コンサルティングサービスなど
設立	1976年12月
所在地	神奈川県横浜市都筑区荏田東2-25-1
従業員数	単体427名、連結1,476名 (2022年3月末現在)
ホームページ	https://www.zuken.co.jp/

